

◇被表彰グループ・被表彰者◇

【学長表彰】

被表彰者(団体)	団体	人数	所属・職名等	表彰の理由
海事科学研究科 附属練習船深江丸 代表:矢野 吉治	○	14	海事科学研究科 附属練習船 深江丸船長 (海事科学研究科教授) ほか13名の教職員	海事科学研究科附属練習船「深江丸」は、本務である船舶実習・実験に加えて、社会貢献活動や地域連携活動にも積極的に取り組み、小中高生から一般市民を対象とした航海体験、各種の洋上研修プログラム、船内公開等の多岐にわたる活動を企画運営してきた。 東日本大震災から1年の節目である平成24年3月には、昨年10月に神戸大学と東北大学との間で災害科学分野における包括協定が締結されたことを受けて、初の東北地方への遠距離航海を行った。現地では、「神戸大学－東北大学 災害合同セミナー」や塩竈市の教育委員会と連携した小中学生及び保護者対象の体験航海等を実施した。 深江丸のこのような活動は、深江丸で構築して運用する安全管理システムの徹底による乗組員の高い安全意識と教育活動に対する姿勢や意欲により支えられている。 以上のように、深江丸とその乗組員は、神戸大学における教育と研究のみならず、社会一般に対しても、「日本で唯一の港をもつ総合大学」である本学ならではの、他に類をみない社会貢献活動及び地域連携活動を展開しているものである。
佐々木 衛		1	神戸大学 中国事務所副所長 (人文学研究科教授)	佐々木 衛教授は、本学教員として初めて、海外10か所にある日本学術振興会研究連絡センターの長として昨年4月より日本学術振興会北京研究連絡センターのセンター長として赴任するとともに、同センター内に設置された神戸大学中国事務所副所長を兼任している。 佐々木教授はセンター長としての本来の業務に携わりながら、中国事務所副所長として、中国における神戸大学の広報活動や中国同窓会の活動にも尽力し、中国各地で神戸大学説明会や神戸大学留学説明会を開催して、神戸大学の特長を中国関係者に広く知らしめ、研究者の招へいによる共同研究の推進や、優秀な留学生の募集に努めている。さらには、中国に留学中の学生をサポートしたり、中国で活躍中の卒業生との連絡を密にしたりするなど、多様な教育面で貢献もしている。 以上のように、中国における神戸大学の存在意義を大いに高め、中国における神戸大学の活動をより活発にしたものである。
万年 英之		1	農学研究科 教授	万年英之教授は、ウシを中心とする家畜の遺伝育種学的研究に取り組み、その研究の成果は牛肉の美味しさに関する遺伝子の同定と利用、ウシの品種鑑定法の確立、アジア在来ウシの遺伝的多様性と起源の解明など多岐にわたっている。これらの成果は学術的貢献のみならず、開発技術を積極的に特許申請し、現場で利用されている技術も多い。特に、牛の品種鑑定法が牛肉の偽装表示を摘発する技術として実際に食肉産業の現場で利用され、マスコミでも頻りに報道されるなど高い評価を受けている。牛肉の品質に関する遺伝子の同定に関わる研究は、世界初となる牛肉品質のゲノム診断法として、複数の遺伝子マーカーが国内外の現場で利用され、家畜の遺伝的多様性の研究は、国際的な共同研究を基盤にアジア在来のウシの起源を分子遺伝学的手法の利用により解明している。その功績から、平成22年度には日本畜産学会賞、平成23年度には日本農学賞・読売農学賞、平成24年度には科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞している。 こうした万年教授の一連の活動は、神戸大学の学術的及び社会的評価を著しく高めたものである。

【特別賞】

被表彰者(団体)	団体	人数	所属・職名等	表彰の理由
医学部附属病院看護部 防煙教室のボランティア 活動グループ 代表:塩川 ゆり	○	4	医学部附属病院 看護部 看護師長 ほか3名の職員	医学部附属病院看護部では、兵庫県看護協会が実施している「まちの保健室」活動として、平成22年度より神戸市中央区、兵庫区、北区を中心に、兵庫県内、及び国内の大学病院でも初となる小中高生への「防煙教室」を開設した。教材には、動画やアニメ、クイズや呼吸器疾患の疑似体験などの内容を盛り込み、生徒達の集中力が切れないように工夫を凝らし、多様なタバコの害や怖さを具体的に伝えるものにした。この防煙教室は、兵庫県看護協会からも評価を受けている。この活動は看護職員がボランティアで行っているものであり、日本の未来を担う子供たちに対し、タバコの害や自身の健康について看護職員が教育するという社会的意義の高い公衆衛生活動を行ったものである。
教育研究用計算機システム 導入プロジェクトチーム 代表:田村 直之	○	14	情報基盤センター教授 ほか13名の教職員	教育研究用計算機システム導入プロジェクトチームは、全学の情報基盤となる計算機システムである神戸大学教育研究用計算機システム(KAISER2010)導入に際して、全学的ICTシステムに対するユーザ認証基盤の提供、シングルサインオンシステムの導入、メール関連諸サービスの実現、Webサーバの導入、1300台以上の教育用端末の導入、CALL教室等に対するWindows認証サービスの導入、仮想化技術によるクラウド基盤の導入等、高信頼かつコストパフォーマンスの優れたシステムの構築及びその安定的な運用に尽力することにより、神戸大学の教育・研究・運営の高度化及び効率化に貢献したものである。
片山 寛則		1	農学研究科 附属食資源教育研究 センター 講師	片山寛則講師は、東日本大震災に見舞われた被災地の復興を願い、平成23年度からイワテヤマナシの苗木を、復興のシンボルとして被災地の学校に贈る神戸大学復興支援プロジェクト「校庭にイワテヤマナシの花を咲かせよう」を展開している。昨年12月、片山講師を中心とした食資源センターの教職員が津波で被災した三陸沿岸南部地域の陸前高田市から宮古市までの小中高等学校、特別支援学校43校を訪問し、結果、約半数の学校から苗木を育ててみたいという返答を得、今年3月には片山講師に加え、その他農学研究科関係者も参加して吉里小学校、高浜小学校、宮古水産高校にて、生徒たちとイワテヤマナシの新念植樹を行った。さらに、宮古水産高校ではイワテヤマナシを材料として加工品を開発し、地元の活性化を目指す取り組みにつながっている。 これら一連の活動は朝日新聞夕刊の1面トップ記事として大きく取り上げられたほか、読売、日経、毎日、岩手日報、神戸の各新聞にも取り上げられ、共同通信社から全国に配信された。
関 典子		1	人間発達環境学研究科 講師	関 典子講師は、自ら振付家・舞踊家として、身体表現(パフォーマンス)を行い、新たな世界を開拓しつつ、それを基にした教育・研究に励んでいる。平成20年に「兵庫県芸術奨励賞」を受賞、平成22年には、アジア最大のコンテンポラリーダンスフェスティバル「15th横浜ダンスコレクションR横浜ソロ×デュオCompetition+」のファイナリストに選出されるなど、その斬新さが広く認められている。また、二度にわたって「日本ダンス評論賞」も受賞している。本年9月には北京にて開催される「美的采風—中日コンテンポラリーダンスフォーラム(中日当代舞蹈论坛)」に招聘された。 さらに、関講師が指導する舞踊ゼミの学生は、「アーティストック・ムーヴメント・イン・トヤマ2011」における特別賞の受賞をはじめとした顕著な活動を行っており、その斬新な活動が認められ、平成23年には「神戸市文化奨励賞」も贈られている。

※被表彰順については、団体、個人の順とし、それぞれ五十音順とした。